

第1回 豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会 議事録要旨

注) 議事録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

日 時 2020年6月23日(火)13:30~15:30

会 場 豊岡市役所立野庁舎 多目的ホール

出席者 田垣委員、浜上委員、米田委員、中井委員、足立委員、國下委員、
宮下委員、大垣委員、中川委員、中奥委員、久木田委員、岡垣委員、
大江委員、船谷委員、柳委員、松本委員(欠席:小西委員)

1. 開会

2. あいさつ

健康福祉部長:

- 今回は、障害者基本法による障害者計画、障害者総合支援法による障害福祉計画、児童福祉法による障害児福祉計画の策定を進めていくことになる。コロナ対策として「3密」に留意しながら、タイトなスケジュールになるが進めていきたい。場合によっては、リモート開催になることもあり得る。

3. 自己紹介

(省略)

4. 委員長及び副委員長の選出について

委員長:宮下委員、副委員長:久木田委員

委員長あいさつ:

- 推進委員会に関わって長い年月になるが、私自身がどこまでできているか疑問に思いつつ悩んでいたところ、前任の委員長を担っていた西池さんが退任されたということで、迷いながら本日になっている。
- 障害者福祉は、制度も含めて地域も良くなってきているが、まだまだ課題もあり残っていることが多くあり、本当に地域が動いていけるのか、不安も疑問も持っている。
- コロナなどこれまで考えてもいなかったことなど、社会も変わりつつあるのかと思う。
- 通所施設自体も原則開設するようにと国からあり、粛々と密にならないように工夫をしながら開設してきた。もし、施設の中から感染者が出た場合、どうするのかということも考えていかないといけないと思っている。
- 3つの計画がちょうど今年で終わり、2021年度から大きな節目の中での委員長という大役は責任が重いが、委員会の皆さんの専門的なご意見をいただきながら良い計画にしていきたい。ご協力をお願いします。

副委員長あいさつ:

- 2018年に児童発達支援センターに移行して、放課後等デイサービスや重症心身障害者

の通所利用、相談支援事業などいろんな事業を行っている。計画策定に関わらせていただく中で、また、豊岡の住民として引き受けさせていただいた。皆様のご協力があったので計画策定なのでよろしくお願いします。

5. 協議事項

(1) 豊岡市障害者福祉計画の策定方針について

- 事務局より、資料2に基づき説明。

委員長：

- ・ タイトなスケジュールだと感じた。コロナの関係で第1回目の会議開催が延びた。7月中にアンケート、グループインタビューとなっている。

A委員：

- ・ 資料5（No.1）の意見であるが、策定方針の文章がわかりにくい。一つの段落がつながっていない。現計画の文章は腑に落ちる。4段落構成で、1段落の次に3段落、4段落、最後に2段落の方がわかりやすい。さらに、3段落の「法整備進んできましたが」の部分は工夫していただきたい。「取り巻く課題」「今後を見据え」などは削除して、簡潔な文章にすればどうか。「このたび」も不要であり、なるべく市民の目線に立って、市民にわかりやすい文章になればよいのではないか。行政の事情はあると思うので、検討していただきたい。スケジュールがタイトで心配している。

事務局：

- ・ 策定方針については、ご助言いただいた表現で考えていきたい。スケジュールにつきましては、きついと思いますが、できる限りこれに沿って効率よく進めたい。

委員長：

- ・ 計画策定の趣旨の文章は、委員長、副委員長、事務局で調整し検討する。

(2) アンケート調査について

- 事務局より、資料3に基づき説明。

委員長：

- ・ 事務局説明の中で、もう少し詳しく聞きたい、あるいは、追加質問があれば意見をいただきたい。

J委員：

- ・ 18歳以上の問38（犯罪や被害）の設問文の意図を教えてください。

事務局：

- ・ 障害者計画で防犯をあげているので、この設問を設定している。

委員長：

- ・ 犯罪という触法側と被害者側が一緒というのが回答しにくいということだと思うが。

A委員：

- ・ 障害者の方が、犯罪にあってしまったことを聞いており、触法は聞いていない。詐欺や泥棒などとなっているが、性犯罪を入れることも考えられる。ただ、その場合は「ない」の回答になる。

委員長：

- ・ 読み取りの違いが出てくる可能性があるとしたら、わかりやすい表現に修正してはど

うか。

事務局：

- ・ 回答者がわかりやすい内容に修正する。

H委員：

- ・ 別紙6（の2つ目）に、事前質問（別紙5）に対して、追加設問を出していただいているが、私が質問した意図とは違っている。この追加設問では、外形的な関わりについてだけの質問になっているが、本当に聞きたかったのは、問24で地域住民の理解と見守りがあり、これに対して具体的に、地域できいてもらっているか、そういうニュアンスの設問を加えてほしい。

事務局：

- ・ 地域の方々の理解の部分は重要であり、検討したい。

A委員：

- ・ 社会調査の件について、別紙5の4、5番について。
まず、4番で使用目的をもう少し広く書けばどうか。アンケートは策定の都度必要ないのではというようなことがあり、その場合は、過去のアンケート結果を分析することになる。今回だけ利用となると今後、二次利用ができない。また、2つ目の点では、大学等に再分析の依頼があることもあり、今の使用目的の内容では、手続き等が必要になるので、検討していただきたい。
- ・ 5番では、複数回答をすればするほど、どういう人たちが、どう思っているかを同定できない。これを分析してもなかなか結果がでないので、選択肢数を絞りたい。

C委員：

- ・ アンケート調査は、18歳以上と未満に分かれているが、18歳未満では、特別支援学校に通っている小学部なども対象になるのか。

事務局：

- ・ 特別支援学校に通っている手帳の所持の方、不所持の方でもサービス（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）を利用している方を対象にしている。

C委員：

- ・ 災害時のことに関する設問で、18歳以上には問41、42とあるが、18歳未満では問31だけであり、18歳以上の問41に相当する設問がないが、理由はなにか。

事務局：

- ・ 18歳未満は、おそらく家族と避難することが多いと思われるので、省いている。

C委員：

- ・ 例えば、支援学校に在籍している児童は、学校に多いことが多いので、その意味で省いているのかと思っていたが、そうではないのか。

事務局：

- ・ ご家族による避難、学校での教職員での対応を前提としているので、省いている。

委員長：

- ・ C委員の地区には、聴覚障害の方の学校があり心配からの質問かと思う。

C委員：

- ・ 特別支援学校は、台風23号の時は床上浸水になっており、避難場所の指定ではなく、豊岡高校が避難場所になっているので質問した。

委員長：

- ・ 想定部分が回答しやすい方法で設問を設定してほしい。

O委員：

- 成人の場合と 18 歳未満で、どのような差が出るかというのもあると思うので、18 歳未満でも設問を追加してはどうか。

委員長：

- 過去のアンケートで、18 歳未満の回答は、ご家族が回答したかと思うが、誰が回答したかはわかるのか。

事務局：

- アンケートは誰が回答したかは特定されないが、保護者が回答している場合が多いと推測される。

A 委員：

- 大学でも避難訓練をしている。避難時には家族が同行していると思うが、見方を変えると家族の方にすべてを頼らざるをえなくなっている。シングルマザー、高齢者と同居の場合などもあるので、18 歳未満に追加して比較してもよいのではないか。

委員長：

- 18 歳未満でも年齢の開きが大きいので、追加してもよいのではないか。

事務局：

- 比較をするという点で、追加する方向で考えていきたい。

N 委員：

- アンケートにすべてがこめられないと思う。災害を本当に考えるのであれば、住所等をプロットできるようにしたいが、それはできない。避難所に関しては、避難される人の状態に合わせた支援を避難所として検討すべきではないのか。障害のある人が避難所に行ったときにどうかということを考えるきっかけになるのであれば、追加すればと思う。アンケート結果を市の障害計画にどこまで落とし込むのか、防災部局とも十分調整をして、一人一人について、どこに避難するのがよいか決めて、それを誰が支援するかまでしている地域もある。豊岡市でも考えられていると思うが、現実的にはどの障害の人はどこの避難所に行くということまでは、決まっていないのではないか。
- この分野に関して、今後、このようなことについて整理していただくきっかけになればいい。そういう意図もあって、聞かれているのだと思う。アンケートがその一部で、それをきっかけで、災害時には誰が、どこへということまで言えればよいのではないか。

委員長：

- コロナの時期でもあり、災害と言わずに非常時において必要ではないか。在宅で介護している保護者が感染した場合、障害者本人がどうなるのかをシミュレーションすることは重要だと思う。

D 委員：

- 災害時避難について、学校や施設に障害者が在籍している場合、災害時の支援マニュアルを定めているはずである。このアンケートでは自宅と限定されているが、家族がたまたまいない場合やヘルパーが入っていない場合などはどうなのかということを質問するとすれば、家族の他に、2 番目の選択肢も必要である。
- 避難所は行けない場合もあるので、避難先をどう選ぶか、誰とどこへという質問が必要ではないか。一番困るのは、一人で行動していて外で災害にあった場合が一番心配である。

委員長：

- 災害は時を選ばないのでケースバイケースで万全は難しいと思うが、選択肢を増やすというのはどうか。

A 委員：

- このアンケートを豊岡市の障害者の防災計画までつなげるところまでとするのか、基礎資料とするのかということだと思う。どこへ避難となると最もではあるが、そうになると、豊岡市障害者の防災計画ということになる。また、現在は、感染症の問題が出ており、コロナのこともアンケートに入れるかどうかなども考えられる。アンケートの位置づけを明確にした上で、作成してはどうか。

事務局：

- 具体的に障害者の避難計画を立てられるかとなると難しい。避難所については、現時点ではコロナを踏まえた避難をどうするか検討する状況である。今までは、小さな体育館にいっぱい避難者を受け入れてきたが、例えば、北中の体育館でもコロナ対策を考えると、60～70人程度しか入れない、何とか工夫しても100人ぐらいかというのが現状である。このような現状であり、すべての障害者の方々の具体的な避難場所をどう確保できるかというのは、難しいのが現状である。
- それぞれがどう避難するかについては、自宅の安全な場所、また、近所があればそこに避難していただくなどの避難があり、極力、避難所が集中しないように考えていくことになる。
- そうした中で、障害者の方、一人一人の避難行動を特定するのは難しいと考えている。N委員の意見のように今回はきっかけとしてのアンケートとしたい。

委員長：

- 防災に対しては、本アンケートで網羅するのは難しい。回答する側に避難に困っているなど回答ができればと思う。地域福祉計画で防災について具体的に検討もできるのではないか。

K委員：

- 18歳以上の問35、36が、18歳未満ではなくなっているが、理由は何か。

事務局：

- 虐待に関して、18歳未満については、保護者が回答することが想定されるため虐待について回答されないのではないかとということで設問を設けていない。

A委員：

- 実態はそうだと思うが、虐待防止法の趣旨では、保護者や準ずる人が多いとなっているので、アンケートを実施する側がそれを前提としてしまってよいのか。虐待は保護者が一番多いので聞かない、というのはどうかと思う。

J委員：

- 保護者が、ご自身で回答されないとは思いますが、他の場合もあるので設問があった方がよいのではないか。

事務局：

- 保護者以外からの虐待もあるので、18歳未満についても追加する方向で検討したい。

委員長：

- できれば追加していただきたい。

(3) グループインタビューの実施について

- 事務局より、資料4に基づき説明。

G委員：

- グループインタビューを本当に検討されているのか。この時期に集まれるかどうか。

委員長：

- 時期も時期ということ。スケジュールもタイトである。

N委員：

- グループインタビューについて精神障害者の場合、ご家族と当事者は分けるということでのよいのか。両方でニーズが異なるので分けてほしい。グループインタビューではなく、その他になると思うが、相談支援専門員への意見を聴いてほしい。足りないサービスや質の議論をしてほしい。自立支援協議会で具体的にどう進めるかプランニングして、課題を今期の計画に盛り込んでほしい。その辺りの意見をしっかり聴いてほしい。

事務局：

- 精神障害の方については、分けて開催できるかどうか検討したい。例えば同日で部屋を分けるなどが想定できる。相談支援専門員については自立支援協議会の意見も聞きながら進めたい。本日の午前中、運営会議があり、その中での意見も聞いていくようにしている。

委員長：

- 北但広域療育センターは、グループインタビューで2つの依頼があるかどうか。

副委員長：

- 前回のことを理解していないが、センターで職員と相談して対応したい。コロナの影響はそれほどないと思っている。

委員長：

- 気になるのはコロナ感染防止である。グループインタビューは障害種別によって、聴き方、場所などの工夫・配慮がないと本人の意見が聴きだしにくいと考えている。過去に出席している中で、徐々に意見が出てきているように思うが、グループインタビューでは、以前にも言ったのに何も変わっていないと言われることがあるので、ご理解いただけるような案内が必要だと思う。

G委員：

- グループインタビューは本当に必要か。

A委員：

- 絶対必要かどうかは市の方針になると思うが、アンケートだけでは把握できないことがあるので、アンケートと両輪という意味で必要ではないか。豊岡市では過去に、ワークショップを障害ごとに4回にわけて実施された。それ以外ではグループインタビューを実施されているが、グループインタビューは1回だけで、以前から変わっていないなどの意見で時間切れになる場合もあるが、それを防ぐためには、事前案内、趣旨説明をしっかりとしておく必要がある。豊岡市は他市に比べて、毎回実施されており、きちりしている自治体だと思っている。グループインタビューをすることによって、これは人づくりで、次の市の委員会に入ってくれるなど、何かアクションを起こすきっかけにもなると思う。

G委員：

- 日頃から障害者相談員をしているので、電話で愚痴を聞いており、十分わかっている。わざわざ集まってというほどではないと考えている。ボランティア、ガイドヘルパーにも来てもらっており、どうしても集まらないといけないというほどのことではないと思っている。

委員長：

- 前回のように案内しても集まらなかったというのはあるかと思うが、全体には呼びかけてはどうかと考えている。

副委員長：

- 北但広域療育センターは、密を避けるということで15人は厳しいと思う。

事務局：

- 15人以内としているが、会場に入ることができる程度とし、無理であれば別途会場を確保したい。グループインタビューは、毎回実施しているが、なかなかそれが反映されたのかということは委員会でも意見として出ている。どこまでできたのかはわかりにくいので、事務局として一覧で集約し、進捗と課題を出していきたいと考えており、グループインタビューの場や必要なときに説明させていただけたらと思う。

委員長：

- 確かにそれは重要と考える。会場は相応しいところを設定していただきたい。移動についても参加しやすい場所を設定していただきたい。今後、アンケート、グループインタビューについて事務局とも相談したい。グループインタビューには事前に委員にも案内するので、可能であれば参加してもらえればと思う。

A委員：

- グループインタビューは、適正な人数があると思う。これまではうまくいっているので、その方向で進めてほしい。

6. その他

事務局：

- 策定スケジュールがタイトになっているが、仮にコロナ第2波が来た場合は、回数を減らすことも考えており、その場合には委員長、副委員長と相談して決めたい。また、本日の課題について、委員長、副委員長と相談して進めたい。

委員長：

- その方向でよろしいでしょうか。

全員：

- 承認

事務局：

- 次回は8月27日（木）13:30～

N委員：

- 国から指針が出ており、新しい方向も出ている。豊岡市では、自立生活援助のサービスの事業所がないので気になっている。このように3年ごとに変わってきているので、新たな視点についても計画に盛り込んでほしい。

7. 閉会

副委員長：

- この後、タイトなスケジュールで、第2波がこないことを祈っている。次回の会議もよろしくお願いします。